

(案)

令和7年度千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館ビジョン2040」における目標達成に向けた2つの基本目標と施策展開の柱に沿い、令和7年度の図書館評価を示します。

※評価対象：令和7年度、評価実施：令和8年度

基本目標1

特長のある「知の拠点」の実現

施策展開の柱

- 1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進
- 2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築
(多様な主体による知の創出・活用)
- 3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

基本目標2

新たな時代に適応する運営の実現

施策展開の柱

- 1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現
- 2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

評価結果一覧

評価	
A	計画どおりに実施でき、一定の成果があった。
B	課題はあるものの、概ね計画どおりに実施できた。
C	不十分な点や課題が多く、計画どおりに実施できなかった。
—	今後取組事項として、研究・検討している。

全体	項目数	内部評価		外部評価	
	9	A	4	A	4
		B	4	B	4
		C	1	C	1
		—	0	—	0

図書館サービスの基本的な取組事項	項目数	内部評価		外部評価	
	1	C		C	

令和7年度 主要事業	項目数	内部評価		外部評価	
	8	A	4	A	4
		B	4	B	4
		C	0	C	0
		—	0	—	0

施策の柱ごとにおける進捗状況について

区分	
達成	事業量に対し、8割以上進捗しているもの
順調	概ね順調に進捗しているもの（事業量に対し、6割以上進捗しているもの）
遅れ	進捗状況に遅れが出ているもの（事業量に対し、6割未満の進捗であるもの）

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現	進捗状況
1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	遅れ
2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築 (多様な主体による知の創出・活用)	順調
3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実	順調

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現	進捗状況
1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現	遅れ
2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	順調

図書館協議会外部評価部会委員の意見に対する対応

説明	項目数
意見に対する取組みを実施しているもの	0
意見に対する取組みについて検討しているもの	1
未対応のもの	0

図書館サービスの基本的な取組事項

取組説明	内部評価	取組結果	今後の取組み	外部評価	外部評価者のコメント
資料費を有効に活用し、図書館全体としての計画的な収集、適正な管理、迅速な提供及び基本的な資料提供サービスの充実に努めます。	C	【資料提供サービスの充実】 ・「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、各分野の新刊書を購入し、提供した。 ・中央館・地区館職員による合同選定会議や、館内選定会で資料の選定を行った。 ・リクエスト資料などは利用者の要望を迅速に反映させるよう努め、購入や相互貸借などにより、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 ・利用頻度の低くなった資料の除籍及び所管替えにより、書架に余裕を持たせて検索性を高めるとともに、順次新刊書を配架することで情報の鮮度を維持するよう努めた。 ・日々のカウンター業務を通じて収集した利用者の要望を資料選定に反映した。 ・企画展示に併せて関連資料を購入し、展示・紹介することで利用促進を図った。 ・来館者に新刊書を案内するため、新刊新着本のリストを作成し、新刊コーナーで提供した。 【予算及び寄贈資料の有効活用】 ・中央館・地区館・分館間で資料や地域・行政資料の移管及び分担購入を実施し、資料の効率的な配置及び予算の有効活用に努めた。 ・寄贈資料の受け入れを通じて蔵書の更新を図るとともに、利用者との信頼関係を深め、継続的な寄贈につなげた。 【電子書籍】 ・電子書籍サービスについて、提供資料数を13,620点から14,028点に拡充した。 ・夏休み前に「すぐー」(学校・保護者間連絡システム)を活用し、児童生徒向けの電子書籍サービス啓発チラシを一齐配信することで利用促進を図った。 ・教職員向けの研修等を通じて児童生徒向けの電子書籍サービスの周知を図った。 ・年度末に教職員へのアンケートを実施し、学校での活用状況や活用方法、要望を把握した。	・限られた予算の中で、各種取組を通じて、資料の充実及び利用促進に努めたが、令和7年度は図書館サービスの基本的な取組事項について、大半の項目で前年度を下回る結果となった。引き続き、利用者ニーズに応じた資料整備を継続するとともに、SNSやホームページ等を活用した情報発信の強化を図る。また、季節や地域課題に応じた展示の充実を進め、幅広い世代の利用促進に努める。 ・貸出冊数が増加している電子書籍サービスについて、さらなる周知及び利用拡大を図り、多様な利用形態に対応した図書館サービスの充実に努める。 ・資料の充実を図るため、引き続き予算の確保に努める。	C	・来館者数は減少となったことから、今後も様々なイベントや展示を実施していただき、利用者のニーズを探り拡大を図ってほしい。 - 例えば、図書館以外の施設(区役所、ショッピングモール、駅など)での展示イベントなどの実施に向けての検討。 ・他の政令指定都市の図書館においても予算が減る傾向があるが、ニーズを捉えて企画展示等を展開するなど利用促進に努めてほしい。 ・(根拠データ:『図書館雑誌』8月号News欄「速報 都道府県立図書館と政令指定都市の図書館 当年度資料費予算額」) - 予算が削減される中、電子書籍の活用状況の把握、要望を確認するなどの試みを行い、提供資料を増加(13,620点⇒14,028点)し、また、予約点数の増加(5,641点⇒6,763点)となった。一方、ログイン数は、減(186,942回⇒167,366回)となっていることから今後も活用のための取り組みを進めてほしい。 ・利用促進にも努めていただいたが、予算は減少しており、厳しい状況にある。引き続き予算の確保に努めていただくとともに、限られた資源の有効活用の努力をお願いしたい。 ・電子書籍については、コンテンツ数の増加数などに課題はあると思われるが、学校での活用や、利用状況の把握に努められていることを評価したい。 ・指標については人口の増減なども加味して評価してみてはどうか。 →(回答)現状では、千葉市の人口は増えているが、いただいたご意見のとおり、今後は人口の増減等の影響を考慮していくことも検討していく。 ・図書館利用者のみならず、広く一般市民向けに資料提供サービスの充実についてのPRに努めていることは評価に値する。それが、評価指標に反映されない原因を、具体的に検討する必要がある。例えば、「利用しない人」からの意見を収集する等。 ・児童生徒向けの電子書籍サービスについては、ギガタブの活用が進むのに伴って利用数が伸びると思われる。今後も、機会あるごとに利用促進のPRを行う必要を感じる。 (※学校は、様々な学習、体験活動が並行して行われているため、一度のPR…チラシ配付等で、即利用には至らないのが現状である。学校関係者にPRすることができるチャンスに、いろいろな方向から伝えることができるとうい。また、図書館の子供向けイベント等でチラシを渡すなど、子供が直接「知る」ことも効果があると考える。)

No.	評価指標	達成目標	R7年度実績	R6年度実績	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績
図書館サービスの基本的な取組事項	新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	19,097人	19,488人	19,492人	19,810人	18,555人	13,452人
	来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	206.8万人	208.9万人	207.0万人	197.5万人	197.0万人	162.7万人
	年間貸出利用率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 5.9%	市民の 6.8%	市民の 7.6%	市民の 8.5%	市民の 9.8%	市民の 9.0%
	年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	36,814冊 (うち購入 18,134冊 寄贈 18,580冊 その他 100冊)	41,103冊 (うち購入 22,690冊 寄贈 18,275冊 その他 138冊)	44,239冊 (うち購入 25,560冊 寄贈 18,528冊 その他 151冊)	44,926冊 (うち購入 27,948冊 寄贈 16,788冊 その他 190冊)	47,255冊 (うち購入 28,074冊 寄贈 19,024冊 その他 157冊)	49,429冊 (うち購入 32,175冊 寄贈 17,102冊 その他 152冊)
	図書資料整備費(予算額)	現状維持	87,255千円 (うち電子書籍 10,257千円)	94,428千円 (うち電子書籍 10,299千円)	92,144千円 (うち電子書籍 8,282千円)	96,596千円 (うち電子書籍 8,998千円)	89,137千円 (うち電子書籍 3,000千円)	88,621千円
	図書資料整備費(決算額)		71,806千円 (うち電子書籍 9,669千円)	78,678千円 (うち電子書籍 9,278千円)	78,396千円 (うち電子書籍 7,501千円)	81,051千円 (うち電子書籍 8,998千円)	74,458千円 (うち電子書籍 3,541千円)	76,336千円
	市民一人当たり貸出数及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり 3.6冊 総貸出数 361万冊	一人当たり 3.8冊 総貸出数 374万冊	一人当たり 3.9冊 総貸出数 387万冊	一人当たり 4.0冊 総貸出数 388万冊	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊
	WEB予約件数	対前年度比増	101.3万件	104.6万件	105.9万件	104.6万件	101.4万件	93.2万件
	図書館ホームページアクセス件数	対前年度比増	7,171,671件	9,905,349件	3,581,767件	3,892,532件	4,421,009件	3,597,182件
	(※1) 急増の要因は、特定のIPアドレスからの高頻度なアクセスと考えられる。							

No.	評価指標	達成目標	R7年度実績	R6年度実績	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績
電子書籍	ログイン数	対前年度比増	167,366回	186,942回	63,366回	53,957回	41,157回 (R3.7.30～)
	提供コンテンツ数		14,028点	13,620点	12,872点	11,259点	8,866点
	利用冊数 (上段:貸出点数、下段:閲覧回数)		20,066点 234,339回	19,207点 278,317回	20,415点 68,755回	16,856点 51,282回	12,518点 —
	予約点数		6,763点	5,641点	6,505点	8,263点	6,904点

令和7年度 主要事業 一覧

■主要事業取組項目

No.	項 目	取組説明	R7年度予算	内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
1	(1)市民インタビューによる記憶の保存	デジタル資料の提供やインタビュー手法を用いて、隠れたエピソードや失われつつある記憶を発掘・記録・発信するとともに、これらの情報のレファレンスサービスとリンクした活用を推進します。また、地域で活動している郷土史研究家や教員OBへの地域に関するモデル的な情報収集を通し、こうした情報を継続的に発掘する市民協働体制の構築を進めています。	2,633千円	B	・オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、千葉市の近現代史の研究者、花見川区におけるエンジン栽培等の先駆者、町内自治会連絡協議会会長経験者、地域イベントの実行委員会、千葉市文庫連絡協議会など、9件の取材を実施した。 ・メールレファレンスサービス等において、デジタル化した地域資料(千葉市史)について情報提供した。 ・市民協働体制の構築において、現時点では当初想定していた取組は実施できておらず、体制の構築にも至っていない。今後、改めて具体的な進め方や体制のあり方について検討を行う必要がある。	B	・千葉市オーラルヒストリーはテーマ及び聞き取りの内容が市民生活に密着した地に足のついたもので、未来へつなぐ「知」の収集・保存という方針に沿ったものになっている。 ・郷土資料は将来、貴重な資料となるため、継続して進めてほしい。 ・収集については難しい問題が多いと思われ、その体制については継続して検討してほしい。 ・オーラルヒストリーのインタビューについては、毎年度新たな対象者を見つけて積み重ねていることは評価できる。 ・市民協働体制の構築については、並行して進めるにはやや無理があるかもしれない。(そう簡単ではない。)
2	(2)地域情報のデジタル化	千葉市地域情報デジタルアーカイブへ新たに「妙見信仰調査報告書2」「南部カルタ」をデジタル化し、公開します。	1,736千円	A	・令和8年3月末、千葉市オーラルヒストリー9件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計55件) ・歴史的資料である「妙見信仰調査報告書2」「千葉南部の郷土カルタ」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和8年3月末より公開した。 ・デジタルアーカイブの総アクセス数について、令和7年度は314,639件、令和6年度は250,059件であり、前年度比増となった。	A	・デジタルアーカイブの総アクセス数が、約1.26倍(対前年度比)に増えた。より見やすく使いやすいホームページを作してほしい。 ・今後も将来の財産としての地域情報を着実にデジタル化を進めてほしい。 ・アーカイブなどは、公民館等施設のイベントや学校の授業など、活用の方法を考えられると良いのではないと思う。
3	(3)レファレンス機能の充実	市民や企業等からの高度な情報ニーズに対応するため、法律や経済等のオンラインデータベースを提供し、レファレンスの機能の充実を図ります。	3,465千円	B	オンラインデータベースの提供(端末2台)を継続し、市民や企業の専門的な情報ニーズに対応した。特に、新聞記事に関するレファレンスにおいて、積極的に利用されており、よりの確なレファレンスサービスの提供に努めた。 (オンラインデータベース種類:「法律・行政」、「経済・経営」、「学術」、「新聞記事」) ・新聞記事データベースの活用講座を実施した。 ・オンラインデータベースの利用状況について、令和7年度の年間利用者数は141名に対し、令和6年度の年間利用者数は153名であり、前年度比減となった。	B	・レファレンスサービスの向上を目指して、導入したオンラインデータベースの利用が増えていることは経費面から残念なことである。利便性(即時に適切な回答が出来るようになった。)の広報活動をして利用増を図ってほしい。 ・オンラインデータベースの利用促進については、中央図書館の端末2台ではあるが、全館・公民館図書室で周知すれば、伸びる可能性があるのではないか。
4	(4)電子書籍サービスの提供(学校向けコンテンツの充実)	デジタル社会に対応した学校の読書活動などを支援するため、電子書籍サービスの学校向けコンテンツの充実を図ります。	10,257千円	B	・選書により2,224点を資料提供し、提供資料数を13,620点から14,028点に拡充し、学校向けコンテンツを含むサービスの充実を図った。 ・小・中・特別支援学校での電子書籍閲覧回数について、令和7年度は168,708件、令和6年度は218,901件であり、前年度比減となった。	B	・コンテンツが増えたのに、閲覧数が減ってしまった要因をどうみているのか伺いたい。 →(回答)学校向け電子書籍サービスは、令和6年度にモデル校数校から全校に拡大し、利用者が急増したが、目新しさがなくなることによる反動はある程度あるものと想定していた。電子書籍を利用する学校数は増えており、現時点では、各学校の事情や個々の児童生徒の興味・関心の動向により利用の方法が固まってきた結果ではないかと考えている。今後、魅力あるコンテンツを選定するとともに、学校への周知を継続することで、利用の拡大につなげていく。 ・電子書籍の学校向けコンテンツについては、各館児童担当者や学校関係者(市教研学校図書館部会等)に選書に関わってもらうことはできないか？ →(回答)図書館職員の中にも教員はおり、学校現場の状況を踏まえ、学校向け電子書籍の選書に携わっている。また、各館児童担当の意見も適宜聴取しているほか、アンケート調査により各学校から課題や意向について情報収集を行っているところ。引き続き学校現場の意見聴取の方法について検討していく。
5	(5)社会教育施設保全計画の策定(公民館・図書館)	「千葉市公共施設等総合管理計画」を上位計画とする個別施設計画として具体的な対応方針等を示す社会教育施設保全計画について、計画(案)のパブリックコメント手続を実施し、市民等から意見を伺った上で、計画を策定します。	—	A	令和7年4月16日(水)～令和7年5月16日(金)のパブリックコメントを経て、令和7年8月に「千葉市社会教育施設保全計画」を策定した。	A	
6	(6)千葉市子ども読書活動推進計画(第5次)の策定	本市における子どもの読書活動を一層推進するため、国・県の動向を踏まえ、第4次計画期間中における成果と課題、子どもを取り巻く読書環境の変化等を把握し、今後の施策の基本的方針と具体的方策を定める「千葉市子ども読書活動推進計画(第5次)」を策定します。	—	B	・千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)に基づき、各種事業を計画的に実施した。 ・第4次計画の成果と課題を踏まえ、第5次計画策定に向けた調整を行った。計画策定にあたり、子ども・若者会議において意見を聴取し、図書館協議会における協議を経て、広く意見を聞くためパブリックコメントを実施した。 ・令和8年度に向けて、千葉市教育みらい夢基金を活用した児童青少年向け図書等の充実に関する検討及び予算要望を実施した。	B	・千葉市教育みらい夢基金の活用により、児童青少年向け図書の充実を維持しているのであれば、現状維持ににとどまり、充実に至らないのではないか？ →(回答)教育みらい夢基金を活用することで、普段は購入することができない児童書を購入することができている。児童生徒にとってより魅力的な資料の選定・調達に努め、質の向上を図ることで、児童青少年向け図書等の充実につなげている。
7	(7)千城台公民館・若葉図書館再整備	令和5年度に策定した「千城台公民館・若葉図書館複合施設再整備基本計画」に基づき、令和6年度に引き続き、設計業務を実施し、施設整備を進めています。	84,700千円 (生涯学習振興課予算)	A	実施設計業務委託において、主に設計事業者、図書館システム事業者との協議を重ね、図書館としての意向の伝達、調整を行った。	A	
8	(8)稲毛図書館 昇降機改修実施設計業務委託	当該施設の昇降機に不具合が発生しているため、改修工事の実施設計を行います。	3,000千円 (都市局建築部予算)	A	昇降機改修工事の実施設計を行った。	A	

取組項目

【基本目標1】特長のある「知の拠点」の実現

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

		R7_取組項目	R7_取組結果	担当	個別の 内部評価
取組項目	1	(1)「千葉市民の知」の計画的な集積と発信 ア 千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画(第1次)に基づき、デジタル資料の提供やインタビュー手法を用いて、隠れたエピソードや失われつつある記憶といった「千葉市民の知」の発掘・記録・発信するとともに、これらの情報をレファレンスサービスとリンクした活用を推進し、地域情報サービスの充実を図ります。 (予算:2,625 [千円])	・オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、千葉市の近現代史の研究者、花見川区におけるニンジン栽培等の先駆者、町内自治会連絡協議会会長経験者、地域イベントの実行委員会、千葉市文庫連絡協議会など、9件の取材を実施した。 ・メールレファレンスサービス等において、デジタル化した地域資料(千葉市史)について情報提供した。	中央	A
		【R6_外部評価より】 オーラルヒストリーの一覧表示ページでは、個々の内容が分からず、都度詳細ページを見に行かないといけない。 一覧表示ページに個々の内容細目を表示する等の工夫をしていただきたい。	・オーラルヒストリーの現在の一覧表示ページにおける内容細目等の表示方法について検討を行った。今後、委託業者と適切な表示方法について調整する。	中央	
	2	(2)本市の歴史的文書の整理・保存など ア 本市の歴史的な資料の整理・保存、セミナーや座談会での使用、企画展示その他の効果的な活用について、検討し、実施します。	【デジタル化】 ・歴史的資料である「妙見信仰調査報告書2」「千葉南部の郷土カルタ」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和8年3月末より公開した。 【地域資料の整理・保存と活用】 ・パンフレット等を含む地域・行政資料を収集、整理、保存するとともに、資料を活用して展示や講座を実施した。 ・図書館周辺の遺跡に関するミニ展示、講座を開催した。 ・公民館の市民講座と連携した企画展示で、「千葉氏」に関連する本の展示を実施した。	全館	B
	3	(3)「知」の提供プラットフォーム(基盤)の構築(「知」の見える化) ア 地域情報をアーカイブ化し、インターネット上で公開します。 (予算:1,736[千円])	・令和8年3月末、千葉市オーラルヒストリー9件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計55件) ・歴史的資料である「妙見信仰調査報告書2」「千葉南部の郷土カルタ」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和8年3月末より公開した。 ・デジタルアーカイブの総アクセス数について、令和7年度は314,639件、令和6年度は250,059件であり、前年度比増となった。	中央	A
	4	(4)デジタル・アーキビスト等の専門人材の養成 ア デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について、必要な資格取得の支援などを行い、人材の養成を進めます。	・令和4年度より、千葉市職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタル・アーキビストを盛り込み、資格取得支援に向け周知を図ったが、有資格者の増加には至らなかった。 ・デジタルアーカイブ関係機関(日本デジタルアーキビスト資格認定機構)からの情報収集に努めた。 ・千葉市職員の人材公募制度や、資格取得支援助成制度の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努めた。	中央	B
	5	(5)「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築 ア 地域で活動している郷土史研究者や教員OBなどに依頼してモデル的に地域に関する情報収集を実施し、その結果を検証した上で、収集方針やボランティアの活動を支援する仕組みなどの検討を行い、継続的に機能する体制を構築します。 (予算:8[千円])	地域で活動する郷土史研究者や教員OB等の協力を得て、モデル的に地域情報の収集を行い、その結果を検証した上で、収集方針やボランティア活動の支援体制を検討し、継続的に機能する仕組みを構築することを計画していた。しかしながら、現時点においては、当初想定していた取組は実施できておらず、体制の構築にも至っていない。今後、改めて具体的な進め方や体制のあり方について検討を行う必要がある。	中央	C
	6	(6)学習成果などの「市民の知」の発表などに対する支援 ア 地域の歴史などについて、自主的・主体的に研究などを行っている団体への支援内容に関する調査について検討します。	研究活動を行っている団体が必要としている支援内容を把握するため、ヒアリング等の実施を検討している。また、市民による研究成果を発表できる仕組みの構築に向けて、他自治体の取組事例の調査・研究を進めている。	中央	B

内部評価	進捗状況 遅れ (1)オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、千葉市の近現代史の研究者、花見川区におけるニンジン栽培等の先駆者、町内自治会連絡協議会会長経験者、地域イベントの実行委員会、千葉市文庫連絡協議会など、9件の取材を実施した。 (2)歴史的資料である「妙見信仰調査報告書2」「千葉南部の郷土カルタ」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和8年3月末より公開した。 (3)令和8年3月末、千葉市オーラルヒストリー9件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計55件) (4)デジタル・アーキビストの有資格者の増加には至っておらず、取組の強化が必要である。 (5)「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築については、その進め方等を見直す必要がある。	A→2 B→3 C→1
	外部評価者のコメント (1)(3) ・オーラルヒストリーに、昨年度からインタビューの一部を動画として掲載され、より内容を把握できるようになったと思う。 オーラルヒストリーの一覧表示ページでは、個々の内容が分かりにくいので、いちいち次のページ(目録)を見に行かないと分からないことから、一覧表示ページに個々の内容細目を表示するなどの工夫してほしい。 ・郷土資料の収集は主要な業務であり、そのデジタルアーカイブ化も重要なことと思われ、評価したい。 (5)保存すべき郷土資料の発掘は媒体を問わず難しいと思われ、継続的に検討いただきたい。 (その他) ・国立国会図書館などのアーカイブ関連機関との連携ができるとよいかもしれない。 ・事業の推進に取り組むことも大切であるが、現在までに充実した資料を様々な形で保有し提供しているので、そのさらなる活用・利用促進も進めることも考えたい。	

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

		R7_取組項目	R7_取組結果	担当	個別の内部評価
取組項目	7	(1)SNS(Social Networking Service)を活用したイベントの配信 ア 千葉市図書館FacebookやX(旧Twitter)により、企画展示、講演会、おはなし会など学びのきっかけとなるイベント情報を配信します。	・SNS(XやFacebook)を活用し、企画展示やイベント、司書のおすすめ本の紹介、利用案内など、タイムリーな情報発信を行った。	全館	B
	8	(2)学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供 ア 市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備について、施設の改修等にあわせて、検討します。	市民が集い、学びや交流ができる場の提供に向けて、Wi-Fi環境を備えたミーティングルーム等の整備については、施設の改修時期や利用ニーズを踏まえ、引き続き検討していく。	中央	—
	9	(3)市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進 ア 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図ります。	【様々な手段でのレファレンス】 ・窓口、電話、メール、手紙によるレファレンス対応に加え、フロアワークを実施することで、市民の課題解決をサポートし、レファレンスサービスの充実を図った。 ・オンラインデータベース(端末2台)を、レファレンスサービスに活用した。 (オンラインデータベースの種類:新聞記事、法律、経済、官報、百科事典) 【レファレンスのPR】 ・レファレンスのPRのため、図書館ホームページの「調べ物相談(レファレンス・サービス)」のページに地域に関するレファレンス事例を掲載した。(累計40件 ※令和7年度に2件追加、既存事例の修正も実施) ・“調べ方の道案内(パスファインダー)”として、調査に使える基礎資料の一部や調べ方をホームページで紹介。館内では、リーフレットを設置し、来館者に広く提供した。 【レファレンスに関する研修】 各関係機関(千葉県立図書館を含む)で実施された研修に職員が参加し、レファレンススキルの向上に努めた。	全館	A
	10	イ 出会いのある図書館利用の促進や、地域の交流の場とするため、講座や企画展示などによる情報発信をします。	【講座】 世代を超え、交流の場となるような講座等を実施した。 (例) ・子ども読書講座、絵本読み聞かせ講座 ・定例おはなし会や大型絵本・紙芝居によるおはなし会 ・体験型の市民講座(例:科学講座、工作・折り紙教室) ・文化に関する市民講座(落語、郷土文学、地域の遺跡や加曽利貝塚に関する講座) ・図書館市民講座(「千葉市緑区の縄文遺跡」等) 【企画展示】 地域に密着した情報発信や図書館資料の利用促進を目的に、様々なテーマに基づいた展示を実施した。 (例) ・新刊資料コーナーの設置や季節・テーマに沿った展示 ・地域の遺跡や貝塚に関する資料展示 ・児童展示コーナーで科学や自由研究関連の資料展示 ・タイムリーな話題に対応したミニ展示コーナー設置 ・メダカ飼育の展示(本物のメダカも飼育・展示) ・エントランスでのテーマ展示(図書館さんぽ等) ・市関係課と協力したミニ展示(健康推進課、市民総務課、感染症対策課等とのコラボ) ・ビジネス展示コーナーで就職・転職・資格関連資料展示 【その他】 ・「本だいすき」を実施し、出会いのある図書館利用の促進を図った。 ・テーマごとに封入した「本の福袋」を展示し、読書への興味を引き起こす取組を実施。	全館	A

	11 (4)生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化 ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。	【生涯学習施設との連携】 (公民館) ・こてはし台公民館の主催事業に関連する展示を行い、ブックリストを作成・配布・市民講座を実施 ・鎌取コミュニティセンターとの共催事業で、おはなし会、夏の工作教室(勾玉づくり)、わらべうた・市民講座などを開催 ・土気公民館の文学講座・歴史講座に合わせて、関連図書を特集コーナーに展示 (加曽利貝塚博物館) ・加曽利貝塚博物館から講師を招き、市民講座を実施 (千葉市科学館) ・子ども向けイベント「テレイドスコープを作ろう」を実施 (生涯学習センター) ・「わらべうたと絵本の会」、「子ども読書講座」を実施 ・国際交流課の協力を得て、外国語おはなし会を実施 【教育機関との連携】 ・小学校の図書館見学、まちたんけんを受け入れ ・中学校の職場体験を受け入れ ・読書まつりで、近隣の小・中学校の展示・発表を実施 ・読書まつり等で、高校生によるおはなし会を実施 ・大学と連携し、学生ボランティアによる「英語で楽しむ親子おはなし会」を実施 ・企画展示で近隣の小学校の児童が作成したPOPを展示 【公共施設等との連携】 ・千葉市こども家庭支援課主催の展示「もっと知りたい里親制度」に合わせて、里親や家族に関する図書展示を児童フロアで実施 ・埋蔵文化財調査センターと連携し、小学生向け「わくわく体験教室(科学工作教室)」を実施 【NPO法人との連携】 ・読書まつりにおいて、NPO法人ちば算数・数学を楽しむ会に講師を依頼し、「数ってふしぎ〜つくってあそぼう〜」を実施 ・夏休みにNPO法人と協力して、「おもしろ算数と絵本の会」を実施(小学生対象)	全館	A
	12 イ 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います。	・選書の参考として、公民館図書室に対して新刊全点案内の既刊号を毎月送付した。 ・図書のリクエストや問い合わせに対して迅速に対応した。 ・公民館図書室の資料充実を図るため、寄贈資料を未所蔵の図書室に送付するなどの支援を行った。 ・「図書館・生涯学習振興課・公民館管理室・公民館図書室の連絡体制等について」に基づき、関係機関と相互に協力して対応した。	全館	A
内部評価	進捗状況 順調 主な成果等 (3) ・各関係機関(千葉県立図書館を含む)で実施された研修に職員が参加し、レファレンススキルの向上に努めた。 ・地域の交流の場となるよう、世代や関心を超えて人と人との出会えるよう、様々な講座を実施した。 ・地域に密着した情報発信や図書館資料の利用促進を目的に、様々なテーマに基づいた展示を実施した。 ・「本だいすき」や「本の福袋」など、図書館利用の促進や、読書への興味を引き起こす取組を実施した。 (4)様々な連携事業を実施し、数値目標「連携事業等実施数(学校以外の施設等)」が前年度比増となった。引き続き連携事業を実施し、資料収集や各種事業において相互協力を努める。			A→4 B→1 →1
外部評価者のコメント	(1)広報活動(チラシの配架、ショッピングモールにポスター掲示)を行い、SNS登録者、図書館利用者以外の人々に向けた周知を図っているが、ショッピングモールにおけるポスターで古い情報が掲示されたままのものもあり掲示依頼だけでなくその後も注視してほしい。また、今後も効果を見ながら市民の目に付く施設等にポスターの掲示(例えば、バス車内)、を進めてほしい。 (4)連携事業が増となったことは評価したい。公民館での郷土資料の活用(デジタル・アーカイブ含めて)など連携が図れるかもしれない。 (全体)市民・利用者にとって、図書館とそれ以外の生涯学習施設の区別が付きにくい印象がある。生涯学習振興課等で、今一度整備、検討、周知をする必要を感じる。			

3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

		R7_取組項目	R7_取組結果	担当	個別の内部評価
	13	(1)計画的なこどもの読書活動の推進 ア 本市における子どもの読書活動を一層推進するため、国・県の動向を踏まえ、第4次計画期間中における成果と課題、子どもを取り巻く読書環境の変化等を把握し、今後の施策の基本的方針と具体的方策を定める「千葉市子ども読書活動推進計画(第5次)」を策定します。	・千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)に基づき、各種事業を計画的に実施した。 ・第4次計画の成果と課題を踏まえ、第5次計画策定に向けた調整を行った。計画策定にあたり、子ども・若者会議において意見を聴取し、図書館協議会における協議を経て、広く意見を聞くためパブリックコメントを実施した。 ・令和8年度に向けて、千葉市教育みらい夢基金を活用した児童青少年向け図書等の充実に関する検討及び予算要望を実施した。	全館	B
	14	イ 読書習慣を形成する上で、大きな役割を担う家庭での読書活動をすすめるための「ファミリーブックタイム」運動を推進します。また、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫などを支援します。	・R7年4月には、「ファミリーブックタイム事例集」を4か月児用に各区保健福祉センターへ6,900部、新入学児用に市内各小学校へ9,590部配布し、児童生徒に家庭での読書の習慣付けを図った。 ・ファミリーブックタイム運動のポスターを掲示し、家庭での読書活動推進を図るための啓発活動に取り組んだ。 ・地域・家庭文庫の支援としてリクエスト資料の購入、講演会の実施、講師の派遣を行った。	全館	A
	15	(2)こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実 ア こどもの本を知り、本を手渡す技術を習得するため、必要な研修を実施するとともに、講師として講座事業が実施できるよう、人材の育成を図ります。	・職員及び会計年度任用職員のスキルアップのため、千葉県立図書館等が実施する外部研修や、おはなし会・ブックトークに関する研修に積極的に参加した。 ・「会計年度任用職員おはなし研修会」を開催し、児童サービスに関する実践的な技術の習得を図った。 ・参加した職員が研修内容を報告・共有することで、館内での知識共有と実践力の向上に努めた。 ・職員を対象に、児童サービス研修会を定期的の実施し、おはなし会の技術向上を図った。	全館	A
	16	(3)こどもの本の充実 ア すべてのこども(乳幼児から青少年)の読書活動を支える資料の充実を図り、読書環境の整備に努めます。	・様々な年齢層に対応したこども向け新規図書の計画的な購入を行うとともに、古くなった図書や状態の悪い図書の除籍・買い替えを実施し、読書環境の整備に努めた。 ・児童担当を中心とした館内選書会議を実施し、よりよい資料の収集に向けた情報収集や現物確認を行った。 ・こども向け新刊図書の展示や季節展示を実施し、興味を引く工夫を凝らした。 ・ブックリスト「よんでみよう」を年齢別に作成し、年齢に合ったおすすめの本を紹介した。 ・幼稚園協会からの寄贈図書を活用し、展示コーナーに並べて紹介した。	全館	B
	17	(4)こどもや保護者を対象とした取組みの充実 ア 本の楽しさを知り、話し手と聞き手のコミュニケーションを図れるおはなし会やわらべうたの会を、定期的の実施するほか、家族や親子で楽しめる会も開催し、家庭での読書活動につなげます。	・年齢別・対象別の定例おはなし会、時季に応じたおはなし会、親子おはなし会を開催した。 ・わらべうたの会や絵本の会を実施し、親子のふれあいの場を作った。 ・こどもが学校休業期間中に本や図書館に親しむためのイベントを実施した。(「子ども読書講座」、「親子図書館たんけんツアー」、「子ども1日図書館員」、「夏休みお楽しみ教室」) ・ボランティアの協力を得て、紙芝居を実演した。 ・高校の協力を得て「高校生が語るおはなし会」を実施し、異年齢層の交流の場を提供した。 ・子ども自身が企画できる新たなイベント等の実施については、引き続き検討した。	全館	A
	18	イ こどもたちが、図書館を十分活用し、必要な情報を収集できるよう、図書館の見学会や資料の検索講座などを行うほか、保護者などに対し、こどもの読書の意義及び目的を啓発します。また、司書課程の学生の受け入れ、インターンシップ実習、ボランティア体験の受け入れを行います。	・親子参加型の事業を実施した。(読書まつり、わらべうたと絵本の会、子ども読書の日記念親子おはなし会、夏・冬の親子おはなし会など) ・学校休業期間中に、子どもたちが図書館に親しむためのイベントを実施した。(子ども一日図書館員、夏休みお楽しみ教室、わくわく体験教室、つくってあそぼう算数工作など) ・小・中学校のまちたんけんや職場体験を受け入れ、図書館利用方法を説明した。(小・中学生、保護者、教員初任者を対象にした図書館見学会) ・保護者からのこどもの読書に関する相談に対応し、図書館利用の促進を図った。 ・要望のあった大学から、司書課程の学生(1校)・インターンシップ実習(2校)の受け入れを行った。	全館	A

取組項目	19	ウ こどもが読書に親しむきっかけを作るとともに、家庭での読書の習慣付けを図るため、未就学児（年長児）、小学生を対象に読書手帳や、新就学児を対象に図書館利用申込書を配布します。	・R7年4月には「どくしょてちょう」を、年長児用に約12,000冊、小学1年生から3年生用に約31,500冊、小学4年生～6年生用に約31,500冊配布し、児童生徒に家庭での読書の習慣付けを図った。 ・カウンターに「どくしょてちょう」を置き、未就学児や小学生に配布した。 ・図書館見学に来館した子どもに「どくしょてちょう」を配布した。 ・小学校新入学児童向けの「ファミリーブックタイム事例集」を市内全小学校に配布に併せ、利用申込書の配布(9,590部)も行った。	全館	A
	20	(5)移動図書館車の活用 ア 移動図書館車が学校に訪問することで、こどもたちが学校等にいながら本市図書館の図書資料に触れる機会の提供について検討します。	昨年度は、学校等からの要望が無かったため、移動図書館車による訪問の実施には至らなかった。学校や公園でのイベント等へ参加する機会があれば積極的に訪問・参加する等し、引き続き図書資料に触れる機会の提供に努める。	中央	B
	21	(6)学校・学校図書館との連携・協力の推進 ア 学校と連携し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、学校への団体貸出や、図書館から職員等が学校に出向いておはなし会等を行います。また、学校図書館運営委員会において、選書や運営に関する情報交換を行う等、学校図書館と図書館や公民館図書室が連携してこどもの読書活動の推進を図ります。	・近隣小学校や中学校と連携し、図書館見学、まちたんけん、職場体験の受け入れを実施した。 ・出張おはなし会を実施した。 ・「読書まつり」において、近隣小・中学校の展示、近隣小・中学校による発表、高校生によるおはなし会を行った。 ・学校等の要望を受け、学校用団体貸出資料の充実を目的として、新しい学校用セットの整備やセット内容、貸出手続きの見直し等を行った。また、選書や運営に関する情報交換も行った。 ・学校への団体貸出を行い、レファレンスや読書活動についての相談や、授業に役立つ資料を紹介した。 ・団体貸出で来館した教員や学校図書館指導員に、聞き取りやアンケートを実施し、現在の団体貸出資料について良い点や改善してほしい点について情報を交換を行った。	全館	B
	22	イ 図書館資料を市内小・中・特別支援学校で活用するための支援として、「学校レファレンス用カード」の利活用の推進を図ります。	令和6年度と比較すると、利用している学校・回数等ともに低下している状況である。利用している学校の中には複数回の利用のある学校もあり、取組としての有用性は理解されていると考えられる。引き続きより多くの学校の要望に応えられるよう、具体的な検討を行っていく。 ■利用状況 ・R7年度の貸出回数 171回 利用校数 55校 ■意見等 ・(団体貸出のような)手続きなしで借りられるのが便利 ・貸出冊数が多いと更に良い ・本の予約や取り置きが可能になると更に良い	中央	B
	23	(7)「千葉市民の知」の学校教育での活用 ア 収集した「千葉市民の知」を授業で活用する際の支援について検討します。	・令和8年3月末、千葉市オーラルヒストリー9件を千葉市地域情報デジタルアーカイブに新規追加公開し、千葉市図書館ホームページから閲覧可能となった(合計55件)。 ・学校に導入された「ギガタブ」を利用した郷土学習コンテンツとしての活用については、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化された資料の充実度に応じて、今後検討を進める。 ・引き続き学校へのデジタル化資料のPRも積極的に行っていく。	中央	B
	24	(8)その他の取組み ア 地域おはなしボランティアの育成を図り、協働して、学校、地域、施設などでの活動を進めます。	・地域おはなしボランティアの派遣について、保健福祉センターや生涯学習センター等で行われるおはなし会への派遣調整を中央図書館で行い、各地区館から派遣した。 ・地域おはなしボランティアと協力し、読書まつり、子育てリラックス館や、近隣小学校にて、おはなし会を実施した。 ・地域おはなしボランティアのスキルアップを目的とした研修会(勉強会)及び講座を開催し、知識や技術の向上を図った。	全館	A
	25	イ 子育て支援施設、生涯学習施設その他で行われるこどもの読書活動推進にかかわる事業について、連携・協力します。	・依頼のあった施設(公民館の育児サークル、子育てリラックス館など)に地域おはなしボランティアを派遣し、月例活動やサークル活動を支援した。 ・近隣のコミュニティセンターなど(高洲コミュニティセンター、鎌取コミュニティセンター、土気あすみが丘プラザ)と連携し、親子おはなし会やイベントを共催して、地域での読書活動の推進を図った。	全館	A

	進捗状況 順調 主な成果等 (1)令和8年度に向けて、千葉市教育みらい夢基金を活用した児童青少年向け図書等の充実に関する検討及び予算要望を実施した。 (3) ・様々な年齢層に対応したこども向け新規図書の計画的な購入を行うとともに、古くなった図書や状態の悪い図書の除籍・買い替えを実施し、読書環境の整備に努めた。 ・児童担当を中心とした館内選書会議を実施し、よりよい資料の収集に向けた情報収集や現物確認を行った。 ・こども向け新刊図書の展示や季節展示を実施し、興味を引く工夫を凝らした。 (4)高校の協力を得て「高校生が語るおはなし会」を実施し、異年齢層の交流の場を提供した。 (7) ・令和8年3月末、千葉市オーラルヒストリー9件を千葉市地域情報デジタルアーカイブに新規追加公開し、千葉市図書館ホームページから閲覧可能となった(合計55件)。	A→7 B→6
	外部評価者のコメント (4)「高校生が語るおはなし会」は、語った高校生の経験を積ませたこと。また、異年齢層の交流の場を提供したことは大変評価できる。今後も引き続き高校と協議しながら実施してほしい。 (6)学校図書館等の連携については、現場の意見の聞きとりなどもされていることを評価したい。学校図書館等の状況を知り、今後の改善につなげてほしい。 (7)千葉市オーラルヒストリーとして電子化した資料を郷土学習コンテンツとして活用する試みなどは評価できる。課題も多いようであるが改善していったほしい。 (全体) ・こどもの読書環境については将来のリテラシーにかかわることであり、継続的に取り組んでほしい。 ・子どもの読書環境充実に向けて、様々な取り組みを地道に行っている成果は評価できる。しかし、図書館として考える「よいもの」を提供するだけでなく、実際の子供たちの現状を把握して、取り組みを見直すことも必要であると考える。 読書は、子供の成長にとって不可欠で、推進しなくてはならない活動ではあるが、子供たちの興味関心の多様化、保護者の意識の変化など、改めて把握し直す必要を感じる。	

【基本目標2】 新たな時代に適應する運営の実現

1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

		R7_取組項目	R7_取組結果	担当	個別の 内部評価
取組項目	26	(1)利便性の高い場所へのサービスポイントの設置 ア 利用者の利便性を高めるため、駅前の商業施設などに予約本の受取返却ができるサービスポイントの設置について、施設の再整備にあわせて検討します。	駅前商業施設等への予約本の受取・返却が可能なサービスポイントの設置について、施設の再整備に合わせた導入の可能性を、引き続き検討している。	中央	—
	27	イ 図書館施設が近くにない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。	市内26か所のステーションへ、月2回の指定日に巡回し、貸出等のサービスを提供した。	中央	B
	28	(2)開館日・開館時間の最適化 ア 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日・開館時間の最適化について、新たな生活様式への対応も取り入れながら検討します。	利用者の利便性を高めるため、開館日・開館時間の最適化について、新たな生活様式への対応も視野に入れて検討した。	中央	—
	29	(3)インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備 ア「図書館利用に何らかの障害がある人すべて」に対して、資料を利用する上での障害を、対応機器の整備や人的配慮などにより取り除き、情報提供に努めます。	・大活字本、点字付き絵本、LLブック、視聴覚資料(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)など、高齢者や視覚に障害がある利用者に配慮した資料を収集した。 ・来館が困難な身体に障害のある利用者に対しては、自宅配本サービス(月2回)を継続実施し、訪問時には希望者特新刊案内を配布することで予約利用の促進にも努めた。 ・館内では拡大読書器の活用支援を行い、視覚に障害のある利用者の読書環境に配慮した。 ・視覚障害等により活字による読書が困難な利用者に対しては、録音図書の郵送貸出を行った。 ・障害者サービス研修会や音訳研修会を実施した。	全館	B
	30	イ 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを把握し、中央図書館を中心に、外国語資料の収集・提供や地域の中で生活する上で必要な情報の提供に努めます。	・千葉市図書館の外国語資料数について、令和7年度は22,240件となり、令和6年度の22,255件から15件の減となった。 ・外国語を学ぶための資料収集に努め、英語、韓国語、中国語など多言語での資料を充実させた。 ・中央図書館では、外国語資料に関連する展示を3回実施(海外の映画に関する資料の紹介など)し、多言語資料の認知度向上を図った。 ・こども室内に外国語絵本のコーナーを設置 ・児童向け外国語資料の購入と寄贈を受け入れるなどして、外国語(英語など)絵本や読み物を児童フロアに配架した。	全館	B
	31	(4)自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化 ア 利用者の利便性を高めるため、ICTを活用したサービスを提供します。(IC タグ、自動貸出・返却機等の導入等)	・花見川図書館及びみずほハスの花図書館において、自動貸出機などのICTを活用したサービス提供を引き続き実施している。 ・施設の再整備に併せたICTを活用したサービスの導入を検討し、若葉図書館の再整備において、自動貸出機、自動返却機、予約図書受取室の設置について検討を進めている。 ・マイナンバーカードに対応した自動貸出について検討した。 ・利用カードのアプリ化及びアプリでの自動貸出しについて検討した。	中央	A
	32	(5)情報環境の整備 ア 市民や企業等からの高度な情報ニーズに対応するため、法律や経済等のオンラインデータベースを提供し、レファレンスの機能の充実を図ります。 (予算:3,465[千円])	オンラインデータベースの提供(端末2台)を継続し、市民や企業の専門的な情報ニーズに対応した。 特に、新聞記事に関するレファレンスにおいて、積極的に利用されており、よりの確なレファレンスサービスの提供に努めた。 (オンラインデータベース種類:「法律・行政」、「経済・経営」、「学術」、「新聞記事」) ・新聞記事データベースの活用講座を実施した。 ・オンラインデータベースの利用状況について、令和7年度の年間利用者数は141名に対し、令和6年度の年間利用者数は153名であり、前年度比減となった。	中央	B
	33	(6)電子書籍サービスの充実 ア デジタル社会に対応した学校の読書活動などを支援するため、電子書籍サービスの学校向けコンテンツの充実を図ります。 (予算:10,257[千円])	・選書により2,224点を資料提供し、提供資料数を13,620点から14,028点に拡充した。 ・小・中・特別支援学校での電子書籍閲覧回数について、令和7年度は168,708件、令和6年度は218,901件であり、前年度比減となった。	中央	B

	34	(7) その他の取組み ア 利用者にとって、見やすく、使いやすい図書館環境を整えるとともに、さまざまな危機事案に適切に対応できる体制を整えます。	【掲示】 ・利用マナー向上を促す掲示(例:「雨の日のお願い」など)を行い、館内の環境整備を図った。 ・施設内の掲示物について、内容や傷み具合に応じて更新し、利用者にとって分かりやすい案内を提供した。 【書架】 ・書架の本を適正な量に削減し、極度に傷んだ資料の除籍や、利用の少ない資料を閉架に移動して、書架に適度な空間を確保した。 ・利用者の利便性向上を目的に、書棚の最上段及び最下段にあった資料を、取りやすく見やすい棚へ移動した。 ・地震等による落下の危険性があるため、最上段の書棚への配架を極力避けるようにした。 ・書架ごとのおすすめ本等を紹介する面展示を実施し、利用者の関心を引く工夫を行った。 【危機事案対策】 ・火災事故発生を想定した防災訓練を実施し、職員の対応能力の強化を図った。 ・館内見回り、利用者への声掛けを積極的に行った。	全館	A
	35	イ 市民の図書館利用を促進するため、多様な媒体で、積極的な広報活動を行います。	【媒体】 ・図書館ホームページ、市政だより、図書館だより、SNS(X、Facebook)、ポスター、チラシ、デジタルサイネージ等、多様な媒体を活用して情報発信を行った。 ・一部の館では、近隣商業施設にPRポスターを掲示し、デジタルサイネージに図書館の紹介動画を掲載した。 ・電子書籍について、図書館ホームページ、SNS(X、Facebook)で購入した書籍情報を発信し、利用促進を図った。 【イベント情報】 ・図書館ホームページやSNS(X、Facebook)を活用し、企画展示、市民講座、おはなし会等のイベント情報や、司書のおすすめ本の紹介を行い、積極的にPRを実施した。 ・館内ポスターを掲示したり、チラシを学校や関連施設に配布してイベント情報を広報した。	全館	A
	36	ウ よりよい図書館運営を図るため、多くの市民のご意見を伺う機会を設けます。	・図書館ホームページの「お問い合わせメールフォーム」や館内に設置した「意見箱」、「市長への手紙」などに寄せられた市民の意見を、図書館運営の改善に向けた基礎資料として活用し、回答を希望する利用者には迅速に対応した。 ・市図書館窓口配布及びWEBで千葉市図書館利用アンケート調査を実施した。 (図書館サービス満足度 94.3%) ・図書館ホームページについて利用者の要望に応じ、対応可能な部分(利用案内等)の修正を行った。	全館	A
内部評価	進捗状況 遅れ				A→4 B→5 →2
	主な成果等 (3) ・大活字本、点字付き絵本、視聴覚資料(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)など、高齢者や視覚に障害がある利用者に配慮した資料を収集した。また、来館が困難な利用者に対しては、自宅配本サービスを継続実施し、訪問時には希望者に新刊案内を配布することで予約利用の促進にも努めた。 ・障害者サービス研修会や音訳研修会を実施した。 (4)マイナンバーカードに対応した自動貸出及び、利用カードのアプリ化・アプリでの自動貸出しについて検討した。 (5)オンラインデータベースの提供(端末2台)を継続し、市民や企業の専門的な情報ニーズに対応した。 特に、新聞記事に関するレファレンスにおいて、積極的に利用されており、よりの確なレファレンスサービスの提供に努めた。 (6) ・電子書籍の提供資料数を、13,620点から14,028点に拡充した。 ・電子書籍の提供コンテンツ数、貸出及び予約点数が前年度比増となった。 (7)千葉市図書館利用アンケートにおける、サービスの満足度は94.3%と、昨年度と同様に高水準である。				
外部評価者のコメント	(3)国立国会図書館の障がい者へのサービスとの連携などは考えられないか。 →(回答)国立国会図書館は、障がい者サービスを行う図書館向けのサービスを提供しており、本市では障がい者用資料の借受けや、障がい者用資料の総合目録の使用の承認を得て、業務に活用している。今後も協力関係の維持・拡充を図っていきたいと考えている。 (4)自動貸出は、文京区立図書館等で実施されていて利用者にとって便利ように思えるがその導入検討状況を知りたい。 令和8年度予算及び事業計画中「(4)自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化 ● 利用者の利便性を高めるため、ICTを活用したサービスを提供します。(ICタグ、自動貸出機の導入等)」と記載されていることから。 →(回答)自動貸出機の導入状況については、花見川図書館、みずほハスの花図書館の2館で導入済である。 検討状況については、若葉図書館の再整備においては、自動貸出機、自動返却機及び予約図書受取室の設置を前提として整備を進めており、令和7年度は、設計段階において具体的な配置・運用を検討し、図面への反映を行った。図書館における自動貸出機等のICT化については、今後も再整備の際に検討していく。 (5)(6)電子的な資料の充実については評価できる。それに対して利用が減少していることについては、分析が必要かもしれない。 (7)さらに、「利用しない人」の意見の吸い上げができると、取り組みの見直しにつながると考える。 (全体)今後も、利用者のニーズに即したサービスの提供を心がけていただきたい。				

2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

		R7_取組項目	R7_取組結果	担当	個別の 内部評価
取組項目	37	(1)図書館職員の知識経験を活かす効果的な配置と人材の育成 ア 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。	・新任図書館職員に対し、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者研修を実施した。(参加者28名) ・図書館職員(会計年度任用職員を含む)を対象に、第1回目は図書修理技術の習得を図るため、第2回目はコンプライアンス意識を高めるため、全体研修会を実施した。(参加者計39名) ・図書館業務に関する知識習得を図るため、外部の研修に参加した。(県立中央図書館主催のレファレンス研修会など研修回数7件、受講者数19名)	中央	B
	38	(2)中央図書館の機能強化及び地区図書館・地区図書館分館の再編 ア 司書等の専門分野を特定するとともに、その分野における能力開発を進め、市民等からの高度な情報ニーズに的確・迅速に対応できる人材、知的交流をファシリテートできる人材の養成について検討します。	・令和4年度より、千葉市職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタル・アーキビストを盛り込み、資格取得支援に向け周知を図ったが、有資格者の増加には至らなかった。 ・デジタルアーカイブ関係機関(日本デジタルアーキビスト資格認定機構)からの情報収集に努めた。 ・千葉市職員の人材公募制度や、資格取得支援助成制度の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努めたい。	中央	B
	39	イ地区図書館・地区図書館分館の再編について施設の再整備に合わせ検討します。	図書館機能のサービスについて現状を把握するとともに、課題を整理し、築年数や利便性などを踏まえ、今後の考え方を検討していく。	中央	—
	40	(3)図書館施設の老朽化への対応 ア 老朽化の進む社会教育施設を適切に維持するため、「千葉市公共施設等総合管理計画」を上位計画とする個別施設計画として具体的な対応方針等を示す社会教育施設保全計画について、計画(案)のパブリックコメント手続を実施し、市民等から意見を伺った上で、計画を策定します。	令和7年4月16日(水)～令和7年5月16日(金)のパブリックコメントを経て、令和7年8月に「千葉市社会教育施設保全計画」を策定した。	中央	A
	41	イ 令和5年度に策定した「千城台公民館・若葉図書館複合施設再整備基本計画」に基づき、令和6年度に引き続き、設計業務を実施し、施設整備を進めていきます。 (予算:84,700[千円])(生涯学習振興課予算)	実施設計業務委託において、主に設計事業者、図書館システム事業者との協議を重ね、図書館としての意向の伝達、調整を行った。	中央	A
	42	(4)運営資金を確保する新たな手法の検討 ア 運営資金の確保に努めるため、予算対応を行うとともに、寄付金受け入れや募金箱の設置及び雑誌カバーを活用した新たな広告事業等による広告料、地元企業などからの支援やクラウドファンディングなど、新たな手法について検討します。	・図書資料の整備に充てるため寄附金の受け入れや募金箱を設置し、資料費の確保に努めた。 ・広告料収入を確保するため、ホームページバナー広告のほか、雑誌カバー等への広告を実施した。	中央	A
	43	(5)関係機関との連携 ア 市民の持つ様々な技術、知識、経験をボランティアとして、図書館サービスに資することで、豊かな体験ができる活動の場を増やします。	移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。	中央	A
	44	イ 図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体などとの協力を推進します。	・市内未所蔵資料について、県内他市図書館から相互貸借により取り寄せ、利用者に提供した。 ・希望資料が県内に所蔵されていない場合は、国立国会図書館や県外図書館に所蔵を確認し、資料提供に努めた。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会事業を通じて、千葉市内の図書館施設と連携を図った。 ・NPO法人と連携してイベントを実施した。	全館	A
	45	(6)その他の取組み ア 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募による委員を登用します。	2人の公募委員を含めた10人の委員を委嘱している。	中央	A

内部評価	進捗状況 順調 主な成果等 (1)図書館業務に関する知識習得を図るため、外部の研修に参加した。(県立中央図書館主催のレファレンス研修会など 研修回数7件、受講者数19名) (3)令和7年4月16日(水)～令和7年5月16日(金)のパブリックコメントを経て、令和7年8月に「千葉市社会教育施設保全計画」を策定した。 (4)図書資料整備費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び寄付金受け入れなどの外部資金を確保し、予算獲得のための取組を行った。 (5) ・移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。 ・本市図書館が所蔵していない資料は、図書館間の相互貸借等により、市民が必要とする資料を提供できるように努めた。	A→6 B→2 →1
	外部評価者のコメント (1) ・図書館業務に関する外部研修に参加を更に促進するなどし、司書の専門性の向上を図るとともに司書の専門分野を表示するなど、利用者が司書を活用しやすい環境整備を図ってほしい。また、単に研修を行うのではなく、受講者に何のために行うのかを十分に理解させ、また、受講後、一定のレベルがあると認めたりして、独自の称号(例えば、千葉市絵本エキスパート、千葉市検索エキスパート...)を与えるなど職員のモチベーションを上げる工夫の検討してみてもいいか。 ・正規職員の司書資格保持者が20%程度で推移し続けているので、増加できるよう配慮していただきたい。 (2)資格取得への支援制度の整備などは評価する。有資格者の増加には至らなかったとのことだが、制度が十分であるかなど(研修を受ける方への職場業務軽減など考慮されているかなど)を評価・検討し改善に努めてはどうかと思う。研修成果を業務に生かせる環境や、資格取得のためのインセンティブも何かあるとよいと思う。	

No.	評価指標	達成目標	R7年度実績	R6年度実績	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績
図書館サービスの基本的な取組事項	新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	19,097人	19,488人	19,492人	19,810人	18,555人	13,452人
	来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	206.8万人	208.9万人	207.0万人	197.5万人	197.0万人	162.7万人
	年間貸出利用率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 5.9%	市民の 6.8%	市民の 7.6%	市民の 8.5%	市民の 9.8%	市民の 9.0%
	年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	36,814冊 (うち購入 18,134冊 寄贈 18,580冊 その他 100冊)	41,103冊 (うち購入 22,690冊 寄贈 18,275冊 その他 138冊)	44,239冊 (うち購入 25,560冊 寄贈 18,528冊 その他 151冊)	44,926冊 (うち購入 27,948冊 寄贈 16,788冊 その他 190冊)	47,255冊 (うち購入 28,074冊 寄贈 19,024冊 その他 157冊)	49,429冊 (うち購入 32,175冊 寄贈 17,102冊 その他 152冊)
	図書資料整備費(予算額)	現状維持	87,255千円 (うち電子書籍 10,257千円)	94,428千円 (うち電子書籍 10,299千円)	92,144千円 (うち電子書籍 8,282千円)	96,596千円 (うち電子書籍 8,998千円)	89,137千円 (うち電子書籍 3,000千円)	88,621千円
	図書資料整備費(決算額)		71,806千円 (うち電子書籍 9,669千円)	78,678千円 (うち電子書籍 9,278千円)	78,396千円 (うち電子書籍 7,501千円)	81,051千円 (うち電子書籍 8,998千円)	74,458千円 (うち電子書籍 3,541千円)	76,336千円
	市民一人当たり貸出数及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり 3.6冊 総貸出数 361万冊	一人当たり 3.8冊 総貸出数 374万冊	一人当たり 3.9冊 総貸出数 387万冊	一人当たり 4.0冊 総貸出数 388万冊	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊
	WEB予約件数	対前年度比増	101.3万件	104.6万件	105.9万件	104.6万件	101.4万件	93.2万件
	図書館ホームページアクセス件数	対前年度比増	7,171,671件	9,905,349件 (※1)	3,581,767件	3,892,532件	4,421,009件	3,597,182件
電子書籍	ログイン数	対前年度比増	167,366回	186,942回	63,366回	53,957回	41,157回 (R3.7.30～)	—
	提供コンテンツ数		14,028点	13,620点	12,872点	11,259点	8,866点	—
	利用冊数 (上段:貸出点数、下段:閲覧回数)		20,066点 234,339回	19,207点 278,317回	20,415点 68,755回	16,856点 51,282回	12,518点 —	—
	予約点数		6,763点	5,641点	6,505点	8,263点	6,904点	—
2	地域行政資料の収集冊数 (公民館図書室での収集冊数を含む)	現状維持	2,570冊	3,300冊	3,702冊	2,953冊	3,454冊	3,795冊
9	レファレンス受付件数	対前年度比増	84,376件	86,080件	82,169件	77,588件	74,149件	67,292件
10	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	15回 261人	15回 240人	19回 478人	17回 315人	14回 224人	13回 192人
11	連携事業等実施数 (学校以外の機関(保育所・幼稚園等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数)	対前年度比増	70件	62件	57件	43件	19件	9件
16	児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数	対前年度比増	31.68冊	31.94冊	32.32冊	31.74冊	32.21冊	25.58冊
17	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	956回 15,785人	861回 15,830人	798回 13,870人	621回 4,880人	602回 3,826人	241回 1,805人
21	学校等関連施設と連携事業を行った回数 (図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数)	対前年度比増	220回	280回	192回	167回	145回	151回
	団体貸出による児童図書の提供数	対前年度比増	12,208冊	13,250冊	11,205冊	12,891冊	15,707冊	24,183冊
24	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	53回 116人	40回 106	41回 130	30回 80	12回 53	5回 26
29	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年度比増	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,015点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,714点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,117点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,339点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,560点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,154点
36	千葉市図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足 59.1% やや満足 35.2% 計94.3%	満足 56.0% やや満足 38.3% 計94.3%	満足 57.3% やや満足 38.3% 計95.6%	満足 59.3% やや満足 35.2% 計94.5%	満足 58.6% やや満足 36.3% 計94.9%	満足 54.5% やや満足 38.7% 計93.2%
37	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	対前年度比増	29回 延べ 244人	39回 延べ 259人	44回 延べ 223人	32回 延べ 221人	33回 延べ 261人	26回 延べ 146人
37	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	55.7% 正規職員 23.8% 会計年度任用職員(2級) 100%	54.8% 正規職員 21.8% 会計年度任用職員(2級) 100%	56.8% 正規職員 22.3% 会計年度任用職員(2級) 100%	51.1% 正規職員 20% 会計年度任用職員(2級) 100%	55.9% 正規職員 23.5% 会計年度任用職員(2級) 100%	54.2% 正規職員 21.6% 会計年度任用職員(2級) 98.7%
44	図書館間相互貸借資料数	現状維持	借受8,578冊	借受8,884冊	借受8,392冊	借受 8,164冊	借受 8,533冊	借受 6,536冊
		対前年度比増	貸出7,391冊	貸出7,327冊	貸出8,200冊	貸出 8,145冊	貸出 7,984冊	貸出 6,888冊

(※1) 急増の要因は、特定のIPアドレスからの高頻度なアクセスと考えられる。

評価総評

内部評価				
【総論】				
・来館者数や貸出冊数をはじめ、各指標について、前年度を下回る結果となった。利用者ニーズを踏まえた資料整備や魅力ある事業の実施、効果的な情報発信に取り組むとともに、AI等の新たな技術の活用についても情報収集を進め、業務改善やサービス向上につなげていきたい。 ・電子書籍サービスの利用拡大に向け、学校や関係機関と連携した周知を継続するとともに、イベント等の機会や、配信サービス・SNS等の多様な媒体を活用した情報発信に努める。 ・関係機関との連携をさらに深めるとともに、連携事業の充実や資料・情報の相互活用を推進し、図書館サービスの充実を図る。 ・レファレンスサービスや児童サービスなど、図書館の基本的な機能の充実に継続して取り組み、利用者満足度の向上を目指す。 ・図書館を利用していない方や利用頻度の低い方のニーズを把握する方策について検討し、今後のサービスや事業の改善に反映することで、新たな利用者の拡大につなげていく。				
【各論】				
項目			主な成果	今後の課題
図書館サービスの基本的な取組事項			・リクエスト資料などは利用者の要望を迅速に反映させるよう努め、購入や相互貸借などにより、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 ・電子書籍サービスについて、提供資料数を13,620点から14,028点に拡充し、「貸出点数」が増加した。 ・寄贈資料を有効活用し、蔵書の充実と利用者との信頼関係の構築を進めた。	・限られた予算の中で、各種取組を通じて、資料の充実及び利用促進に努めたが、令和7年度は図書館サービスの基本的な取組事項について、大半の項目で前年度を下回る結果となった。その要因を分析するとともに、利用者ニーズに応じた資料整備や展示・情報発信を充実させ、図書館サービス全体の利用促進に取り組む。 電子書籍サービスについては、より多くの利用につながるよう、特に学校関係者への継続的な周知や、子どもに向けてのPRを行い、サービスの認知度向上と利用促進に努める。 図書館サービスの質を維持・向上させるため、限られた予算の中で効率的な資料整備に努める。
取組項目	基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現	【柱1】 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	・オーラルヒストリーのインタビューについて、千葉市の近現代史の研究者、花見川区におけるニンジン栽培等の先駆者、町内自治会連絡協議会会長経験者、地域イベントの実行委員会、千葉市文庫連絡協議会など、9件の取材を実施した。 ・歴史的資料である「妙見信仰調査報告書2」「千葉南部の郷土カルタ」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ（WEBサイト）上で令和8年3月末より公開した。	・オーラルヒストリーの一覧表示ページにおいて、個々の内容細目を表示するなどの検討を行い、より利用しやすい画面となるよう改善に努める。 ・地域情報の収集に向けたモデル的な取組を実施できていないことから、協力者の確保や実施体制の整備を進めるとともに、収集方針及びボランティア支援のあり方を整理し、継続的に機能する仕組みの構築に取り組む必要がある。
		【柱2】 「知」をつなげるプラットフォーム（基盤）などの構築	・様々な連携事業を実施し、数値目標「連携事業等実施数（学校以外の施設等）」が前年度比増となった。 ・世代を超えた交流の場となる講座を実施するとともに、積極的なPRに取り組んだ結果「一般向き図書館講座の参加者数」が増加し、読書への興味・関心を高めることができた。	・引き続き関係機関との連携を推進し、連携事業の継続・拡充を図るとともに、資料収集や各種事業における相互協力を進める。 ・利用者ニーズを把握するとともに、研修に参加する等、職員の調査能力の向上やレファレンス事例の蓄積・共有を進め、レファレンスサービスのさらなる充実に努める。
		【柱3】 未来を担う子どもたちの読書環境の充実	・高校の協力を得て「高校生が語るおはなし会」を実施し、異年齢層の交流の場を提供した。 ・地域おはなしボランティアと協力し、読書まつりや、子育てリラックス館・近隣小学校にておはなし会を実施し、「地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数」が前年度比増となった。	・児童一人当たりの児童用図書の貸出冊数が前年度比減となっているため、子ども向けのイベント実施による読書支援活動や電子書籍の導入を通じて、児童の読書習慣の促進に努める。 ・学校に導入された「ギガタブ」を利用した郷土学習コンテンツとしての活用については、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化された資料の充実度に応じて、今後検討を進める。引き続き学校へのデジタル化資料のPRも積極的に行っていく。
	基本目標2 新たな時代に 適応する運営の実現	【柱1】 誰もが利用しやすいサービス環境の実現	・中央図書館では、外国語資料に関連する展示を3回実施（海外の映画に関する資料の紹介など）し、多言語資料の認知度向上を図った。 ・千葉市図書館利用アンケートにおける、サービスの満足度は94.3%と、昨年度と同様に高水準であった。	・オンラインデータベースの利用者数について、前年度比減となったため、引き続きオンラインデータベースに関する活用講座等を実施し、利用者数の増加に努める。 ・マイナンバーカードに対応した自動貸出及び、利用カードのアプリ化・アプリでの自動貸出しについて引き続き検討し、利用者の利便性向上とより良いサービスの充実に努める。
		【柱2】 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	・図書館職員の専門性を高める研修の実施や、県立中央図書館などが主催する外部の研修に積極的に参加した。 ・令和7年4月16日（水）～令和7年5月16日（金）のパブリックコメントを経て、令和7年8月に「千葉市社会教育施設保全計画」を策定した。 ・図書資料整備費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び寄付金受け入れなどの外部資金を確保し、予算獲得のための取組を行った。	・図書館業務に関する知識の習得を図るため、引き続き外部研修に積極的に参加する。特に、図書館業務に生かせるAI関連研修などにも積極的に参加し、業務改善やサービス向上につながる知識・技能の習得に努める。 ・千葉市職員の人材公募制度や資格取得支援助成制度の活用により、引き続き、司書資格等の取得を促すことに加え、デジタルアーキビストの養成についても積極的に行う。
	外部評価			
図書館サービスの基本的な取組事項			・来館者数は減少となったことから、今後も様々なイベントや企画展示を実施し、利用者ニーズの把握と利用拡大に努めてほしい。区役所、ショッピングモール、駅など図書館以外の施設での展示イベントの実施についても検討いただきたい。 ・他の政令指定都市の図書館においても予算が減少する傾向にあり、厳しい状況にある。引き続き予算の確保に努めるとともに、限られた資源を有効活用しながら、ニーズを捉えた企画展示等による利用促進に取り組んでほしい。 ・電子書籍については、コンテンツ数の拡充など課題はあるものの、学校での活用や利用状況の把握に努めていることを評価したい。児童生徒向け電子書籍サービスについては、ギガタブの活用が進むことで利用拡大が期待されるため、学校関係者への継続的な周知に加え、図書館の子ども向けイベント等も活用しながら、多様な機会を捉えて利用促進のPRに努めてほしい。 ・図書館利用者のみならず、広く一般市民に対して資料提供サービスの充実についてPRに努めていることは評価に値する。今後は、「利用しない人」からの意見を収集するなど、新たな利用者の獲得につながる取組についても検討していただきたい。	
取組項目	基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現	【柱1】 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	・オーラルヒストリーに、昨年度からインタビューの一部を動画として掲載され、より内容を把握できるようになったと思う。オーラルヒストリーの一覧表示ページでは、個々の内容が分かりにくいので、いちいち次のページ（目録）を見に行かないと分からないことから、一覧表示ページに個々の内容細目を表示するなどの工夫してほしい。 ・郷土資料の収集は主要な業務であり、そのデジタルアーカイブ化も重要なことと思われ、評価したい。また、保存すべき郷土資料の発掘は媒体を問わず難しいと思われ、継続的に検討いただきたい。 ・事業の推進に取り組むことも大切であるが、現在までに充実した資料を様々な形で保有し提供しているので、さらなる活用・利用促進を進めることを検討いただきたい。	
		【柱2】 「知」をつなげるプラットフォーム（基盤）などの構築	・広報活動（チラシの配架、ショッピングモールにポスター掲示）を行い、SNS登録者、図書館利用者以外の人々に向けた周知を図っているが、ショッピングモールにおけるポスターで古い情報が掲示されたままのものもあり掲示依頼だけでなくその後も注視してほしい。また、今後も効果を見ながら市民の目に付く施設等にポスターの掲示（例えば、バス車内）、を進めてほしい。 ・連携事業が増となったことは評価したい。公民館での郷土資料の活用（デジタル・アーカイブ含めて）など連携が図れるかもしれない。 ・利用者にとって、図書館とそれ以外の生涯学習施設の区別が付きにくい印象がある。市として、今一度整備、検討、周知をする必要を感じる。	
		【柱3】 未来を担う子どもたちの読書環境の充実	・「高校生が語るおはなし会」は、語った高校生の経験を積ませたこと。また、異年齢層の交流の場を提供したことは大変評価できる。今後も引き続き高校と協議しながら実施してほしい。 ・学校図書館等の連携については、現場の意見の聞きとりなどもされていることを評価したい。学校図書館等の状況を知り、今後の改善につなげてほしい。 ・千葉市オーラルヒストリーとして電子化した資料を郷土学習コンテンツとして活用する試みなどは評価できる。課題も多いようであるが改善してほしい。 ・子どもの読書環境の充実とは将来のリテラシーにも関わる重要な取組であり、継続的に取り組んでほしい。様々な取組を地道に実施している成果は評価できるが、図書館として提供したいものだけでなく、子どもたちの興味・関心の多様化や保護者の意識の変化など、実態を把握した上で取組を見直し、より効果的な読書環境の充実に努めていただきたい。	
	基本目標2 新たな時代に 適応する運営の実現	【柱1】 誰もが利用しやすいサービス環境の実現	・国立国会図書館の障がい者へのサービスとの連携など、協力関係を築きつつ、利用者により良いサービスを提供していただければと思う。 ・電子的な資料の充実については評価できる。それに対して利用が減少していることについては、分析が必要。 ・「利用しない人」の意見の吸い上げができると、取組の見直しにつながると思う。今後も、利用者のニーズに即したサービスの提供を心がけていただきたい。	
		【柱2】 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	・図書館業務に関する外部研修に参加を更に促進するなどし、司書の専門性の向上を図るとともに司書の専門分野を表示するなど、利用者が司書を活用しやすい環境整備を図ってほしい。また、制度が十分であるかなど（研修を受ける方への職場業務軽減など考慮されているかなど）を評価・検討し改善に努めていただきたい。研修成果を業務に生かせる環境や、資格取得のためのインセンティブも何かあるとよいと思う。 ・正規職員の司書資格保持者が概ね20％程度で推移しているため、増加できるよう配慮していただきたい。	
		【柱3】 未来を担う子どもたちの読書環境の充実		